



入園をお考えのみなさまへ

この手紙は、平塚幼稚園のことを一人でも多くの人に
知っていただきたいという思いから、
在園児の父母で作りました。ご一読くだされば幸いです。



秋山さん (年長) 3児の母。自分も平塚幼稚園の卒園生。

子どもが2〜3歳の時は、癪癪やこだわりが強い我が子を育てるのに戸惑いがありました。当時は、子どもの気持ちに寄り添おうと思い、多少無理をしても子どもの要求に応えたり、私が先回りして、癪癪やこだわりに対応していました。今思い返すと、結果として、子どもの言いがきき、子どものわがままを容認していました。その後入園し、幼稚園の保護者会活動の中で、子どもや親の育ちを考える場があり、「子どもにどうなってほしいか」将来どういう人になってほしいか」を考えて声かけすることが、子どもの成長に繋がるんだと学びました。例えば、登園時遅刻をしそうな時に、子どもが「あっちの道(道回り)から行きたい」と言い、みんなが待つ。というのに遠回りの道から行かせて遅刻をしてしまいました。遅刻をするとうるさくを考えられる人になってほしいかと思ひ、毎日早かけの仕方を考えることができました。こういう私の学び、親としての育ちは、子育ての土台になっていると思ひました。
私自身もこの園の卒園生で、今でも母と私の幼稚園に通っていた時の話を良くしています。母は幼児期のこの大切な時期に子どもと深く関わって良かった。今しかできないのよ」と言っています。
日々の変化が著しい現代社会でも、人間の本質、人としてのあり方は昔と変わらないと思ひます。人間が人らしく生きていくために必要な事、自分の意見を言う、相手や仲間を思いやる、仲間と一つの物事を協力して作り上げていく...それが平塚幼稚園に入園すると経験できます。
友達と遊ぶと自然と。仲間づくりで子どももおとなも育ちあう。平塚幼稚園はまさにこれが叶う幼稚園です。

小野さん (年長) ワーキングママ。仕事を調整しながら保護者活動にも参加。

8年ぶりに第二子を授かり、週6日保育園に預けていたところから平塚幼稚園に入れると決めて動き出したのは入園の半年前。仕事時間が半分に下がる為やらなければならぬことが山積みでしたが、それでもこの園を選んだのは、親の利便性ではなく、本当に子どもを真ん中においた育ちと学びの環境がありそうと感じたからです。

とはいえ、一年目はやはり仕事の調整に四苦八苦し、親が関わる活動にはほぼ参加せずに過ごしました。そして年少の終わりのタイミングでいくつかの活動に参加して他学年のお母さん達と子育ての悩みや葛藤を話す機会が増えた事で、幼稚園や先生が保育の中で何を大事にしているかへの理解が一気に深まりました。

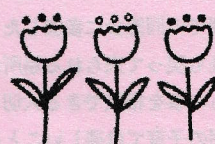
例えば子ども同士のけんかで争いが出た時、今までの私は「ごめんねだよ」と謝る方法だけを教えていましたが、この幼稚園では叩かれて悲しい気持ちに寄り添いながらも「どうして〇〇くんは叩いたんだろうね?」と相手の気持ちにも思いを向けるようなきっかけを作って、お互いを理解し合うことにしかり時間を費やしてくれます。ただやり方だけを教えても、そこに本人の「思い」が湧いてこなければ、心の成長にはなかなか繋がらないからです。人見知りかつ言葉の育ちがかなりゆっくりだった娘に対しても先生方は「まずは感情をしっかりと出せるようになること」に繋がるね」と、心の育ちと彼女のペースを大切にしながら支えてくれました。

平塚幼稚園では保護者会活動が沢山ありますが、それはただ業務をこなす為の活動ではなく、「今の子どもたちの姿」を他学年の親同士で話し合ったり、かけのひつにすぎません。価値観のちがう親同士で話すからこそ、自分だけでは思ひ浮かばなかった新たな視点や気づきを得られる機会に繋がります。日々の子育てに活かせるようになります。

子どもは勝手に育ちます。でも、どんな人達と何を大切にしながら育ち合うのかで育まれるものが全然変わってくるということも、第二子でこの幼稚園を選んだからこそ日々感じています。

佐藤さん (年長) 男四兄弟の母。長男次男は保育園で三男から幼稚園へ。

上の2人の兄は、認可保育園を卒園させ、3人目が在園中の4児の母です。フルタイムで働き、子どもについては深い相談ができる相手もなく、孤独な子育てをしていましたが、平塚幼稚園を知って、こんなに「おんね子育て」する環境があったんだと、東京、砂漠のオアシスのように感じました。孤独な子育てには耐えられず、僅かしかないと思ひたし社会からも復帰を求められているように感じていたけど、ここが社会!子育ては立派な社会貢献!と思ひ、子どもの大切な幼児期は子育てに専念したい!という心の声に気づき、飛び込みました。入園してみると、「先生の関わり」が素晴らしいと感じています。例えば「年長のグループで鶏の世話をする活動で、エサをもらっていきたくてわが子に、たれて園で困ったという体面をして、次忘れなければいいと思ひ、そのままにしていたが、先生方は何週間もかけて、エサをみんなが忘れ続けたら、鶏が死んじゃってかわいそう、そうしたら年中後半も悲しいわし、去年「鶏 宜しくね」と言っていた卒園生も悲しい、ということに「自分たち」気づくように丁寧に関わって下さっていました。今思えば私は放置に近かったと思ひます。あった出来事について、本人が向き合っているような声かけや関わりをすることで自分たちで「なぜそれをするのか、どうしたらいいか「考える力」が身についています。平塚幼稚園における幼児教育は台湾の幼児教育研究者の豊田先生も「真の幼児教育」と絶賛しているそうです。無償化された保育園、便利なサービス付きの幼稚園は魅力的ですが、幼児期の子どもの心にとって、そして私自身にとって、本当に大切なことは何か、よく考えて選択してよかったです。



佐竹さん (卒園生母) 子どもが卒園して6年。

娘が平塚幼稚園を卒園して早6年になります。最近、幼稚園での生活が今の娘の中に根付いているということに改めて感じたエピソードがありました。本人の希望で受験した公立中学入試の面接で「クラスでチャイムの2分前に着席ができない生徒がいます。あなたは何か声をかけますか?」という質問に対して「その子は2分前着席をしたことがないから、なぜそうしたほうがいいのかということがわからないのだと思ひます。なので「わかるために一度やってみたらいいんじゃない?」と声をかけます」と答えたそうです。幼稚園では、数人でグループ活動をしますが、どうしてもやろうとしない子や、自分の意見を通そうとして頻繁に衝突が起こります。その時に、ただ「やって」とか「人の話を聞いて」と言っても何も解決しないことは何度も経験しています。ではどうしてその子はやろうとしないのか、なぜ人の意見をきかないのか、一歩踏み込んで考え話し合うという経験を、その度に積み重ねていました。そのことが、集団生活する上での土台になっているのだということに改めて感じる機会となりました。

とはいえ、それが常に実践されるわけではなく、「男子がふざけてばかりで全然協力してくれない!」と真っ赤な顔をして帰宅するということもしばしばですが、... (笑)

裏面には在園児のパパ・ママへのインタビューがのってるよ!





在園ご夫婦インタビュー企画

クスノキの下で育つ

在園ご夫婦が話してくれた、平塚幼稚園で育つということ

板谷さんご夫妻 (長男の入園から9年目)	4人のお子さんを 在園・卒園させています。	夫婦揃って保護者会活動や、 畑のお手伝いをしています。
-------------------------	--------------------------	--------------------------------

① この園を知ったきっかけは何でしたか？

母：ある雑誌の子育て特集で、全国のいい幼稚園として紹介されていたのがきっかけです。友人の子が通っていたこともあり、よさそうな幼稚園だなと興味を持ちました。

② 数ある園の中から、この園を選んだ決め手は？

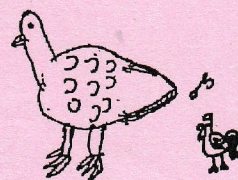
母：園庭に入ったときに、大きなクスノキがあることに安心感を抱きました。他の園で見たようなドリルなどはなく、そして田んぼでの活動も魅力的でした。
父：説明会などで他の園では子どもの様子が見られない中、平塚幼稚園では子どもたちが伸び伸び過ごしている姿を見ることができ、とても印象に残りました。自宅から自転車で片道20分と少し遠かったのですが、悩んだ末に遠くても通わせようと思いました。

③ 入園前、どんなことに期待や不安がありましたか？

父：面接の時に長男が椅子の下に隠れて出てこなくて（笑）。
「お名前は？」と聞かれても恐竜の名前を言っていて、
親としては「これは落ちたな」と軽くショックを受けました。
母：私は逆に不安はなく、「園に入れておけば、自然に良くなるだろう」と楽観的に期待していました。でも実際は、親も一緒に向き合わなければならないと後から気づくのですが（笑）。

④ 先生達の印象を教えてください

父：とにかく包容力がすごいです。どんなに個性が強い子でも、誠実に向き合ってくれる。
母：先生達が子どもを「一人の人間」として深く観察してくれていると思います。親が「うちの子、大丈夫かな」と悩んでいても、先生と一緒に考えてくれる。先生というより、一緒に子育てをしてくれる同志。



⑤ お子さんの成長を感じたエピソードがあれば教えてください

母：長男は気分屋で、やりたくないことは頑としてやらず一匹狼のようなタイプでした。年長が年少に関わる活動で仲良くなった友達に嬉しそうに挨拶をしたり、グループ活動が一緒の友達と降園後に毎日のように遊んだり、仲間と楽しめるようになりました。
友達に言われた事を自分なりに受け止める事ができるようになったと思います。



⑥ この園らしさを一言で表すと？

父：いい意味で「村」ですね。
今の都会では失われた、地域の助け合いがここにある気がします。
母：「地に足がついた生活」。お米を育て、仲間と遊び、季節を感じる。
そんな一年の積み重ねが大人も子どもも一緒に成長させてくれる場所だと思います。

⑦ 4人のお子さんを通わせている中で、「この園でよかった」と感じる瞬間は？

父：卒園してもみんな平塚幼稚園が大好きなこと。小学生になっても、幼稚園にお手伝いに行ったり、(小学校の代休の日に、事前に自分で電話をしてお手伝いに行くことができます。)
幼稚園での同窓会に参加したり、田んぼの活動に参加したり……
卒園後も戻って来られる場所があるのは、なかなかないのではと思います。
母：子どもの事を相談できる大切な仲間ができたことです。
幼児期の子育ては楽しいことばかりではなく、次々と問題がおき、自分の行動に落ち込み、悩ましい日々でした。
幼稚園で過ごす中で、我が子だけでなく、周りの子どもにも目がいくようになり、話したり考えたりすることで、お互いの子どもの成長を喜び合える仲間ができました。



⑧ 今、入園を検討している保護者へメッセージをお願いします

父：3歳から6歳の時期に、広い園庭で思い切り駆け回って体を動かしたり、土や生き物や自然と触れ合ったりできるのは、何物にも代えがたい経験だと思います。
母：子どもらしく、自分らしく、人と関わることを楽しめる場所です。
お預かりはないですが、代わりに一緒に子どもや仲間と過ごせる時間があります。
忙しい日々ですが、子どもの大切な心を育ててくれると信じています。
ぜひ一度、クスノキの下で園庭の空気を感じに来てください。

詳しくはコチラ



平塚幼稚園公式HP

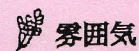
園の詳しい説明や、過去の保護者会からの手紙も読むことができます。



平塚幼稚園公式Instagram

保育の日常の一コマを随時更新中。
ぜひ覗いてみてください♪

在園ママに聞いた！ 平塚を選んだきっかけは？



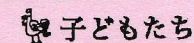
雰囲気

- ・木造の校舎がすてき！
- ・四季を感じられる緑いっぱいの園庭。
- ・「勉強するより外で思いっきり遊んで欲しい」という親の想いにぴったりだった。



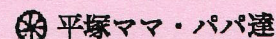
活動

- ・畑で野菜を作ったり、田んぼでお米を植えたり、食育を実体験できる。



子どもたち

- ・子ども達自身で日々の遊びや行事を考えているところが素敵！
- ・公園で遊んでいるとき、大人にもしっかりと挨拶のできる在園児に感激した。
- ・長女の小学校の同級生に卒園生が多く、みんなしっかり自分の考えをもっていてキラキラしていた。



平塚ママ・パパ達

- ・在園の保護者の人柄や雰囲気がとてもよかった。
- ・他の保護者や先生方みんなで子どもを見られる、共有できる。
- ・保護者が幼稚園に関わる機会が多く、子どもの成長にしっかりと関われると思った。



先生

- ・子どもが主体的に考えて動けるような声かけをしている姿をみて。
- ・子どものことを一緒に考えあえる機会が多いので、先生と保護者の関わりがとてもいいと思った。



オープンスクール(見学会)

- ・在園児と遊ぶ娘の目が輝いていた。
- ・どこよりも楽しかったようで、「この幼稚園に行く」と自分で決めていた。

- ・在園の子ども達がいきいきをしていたことが決め手だった。
- ・託児をしてくれた在園の保護者の人柄や雰囲気がよかった。

今年度の
オープンスクールは
9/30(水)・10/7(水)
に開催します！

